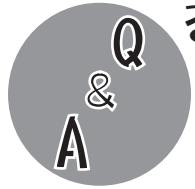


## 門徒が気になる



Q 家族葬で済ませたいのですが

親戚も少なく、費用もかかると大変ですので、葬式は家族葬で済ませたいと思うのですが？

A 気をつけて頂きたい点がいくつかあります

「家族葬」とは最近使われるようになった用語で、少人数での葬儀のことを指しているようです。最近では費用やその他の事情でこういう形式が取られることも増えてきています。しかし問題もあり、その一つに弔問の方の問題があります。少し関係が遠い方で「あの人には世話になったから手を合わせたい」というような方がいた場合に、葬儀に呼ばれない為に自宅にお参りに来ることがあるとか。急にお参りに来られても香典返しが無かったり、仕事で留守がちで鍵が閉まっていると先方にも失礼に当たります。従来通りの葬儀のやり方だとそういう問題は起きにくいものです。何事も派手になりすぎず控えすぎず…ですね。

## 暮らしの中の 仏教語

お薦めの一冊

「歎異抄」 金子大栄校注 (岩波書店)



一冊 八百円(税別)

面目 くめんぼく

仏教で用いられるときは、「本来の面目(めんもく)」というふうです。本来の面目とは、人間の生活活動や意識活動以前の生かされてあるいのち(存在)の有り様・姿をいいます。本来的な真の姿といったことになるのでしょうか。従って、面目は、あり方、有り様、姿の意味になります。これが、「めんぼく」と読むようになると、人に合せる顔とか、世間に対する名誉といった意味に変わります。文字はおなじでも、本来の面目からすると、捨て去られるべき名譽とかプライドが、面目(めんぼく)とは不思議なものです。



敦子の

「こんにちは」

皆様、お元気ですか。風間はまだ暑い日がありますが、朝・晩は涼しくなりましてね。いかがお過ごしでしょうか。

去年は祖父が亡くなった時の話しをしましたね。先月初盆で京都へ帰省させてもらいました。

しかし、一週間もたたずに母方の祖母の容体が急変し亡くなりました。祖母は看護師でしたが、戦争中は従軍看護婦として満州にも行っていたそうです。現地では女性とバシないように頭を丸刈りにして看護にあたっていたと聞いた時は正直驚きました。祖母はいつも別れ際に私が「じゃあ、またね」と言っていると、「もう会えないかもしれない。さよなら元気でね」と言いました。私は「またね」とまた念を押すように帰っていました。後で聞いたのですが、私が遠くに嫁いだからではなく、近くに住んでいる私の弟にも「またね」とは言わなかったそうです。戦地まで行き看護師として働いていた事もあったのでしょうか、生前にいろんな準備もしており、「覚悟」があったのかなと思います。